

学生のみなさんへ

大学は自分の基礎を固める時代

～自分に付加価値をつけよう！～

イノベーション人材となるためにまずは真剣に学業に取り組んでほしい。学業の中身は専門とリベラルアーツ。リベラルアーツが重要だ、というとなぜ文系科目？と疑問を持つ方もいるだろう。しかし歴史・政治・経済・倫理・社会学などのベースをもつことで自分の専門、研究が生み出す社会的価値を客観的にみることができる。自分の専門周りの人だけでなく様々なバックグラウンドの人の価値観を尊重し、共感することができる。イノベーションを起こすということは世界全体で求められていることをニーズとして捕まえる必要があるからだ。そしてとりもなおさず国語・英語。自分が言いたいことを専門外の人にもわかりやすく簡潔に伝える文章力、他の人の言っていることを理解する能力、これがないと自分が大事と考えている研究テーマ、成果も他の人にわかってもらうことができないかもしれない。

専門性を深化させるのが学生時代の研究活動だ。研究活動が主体となる大学4年次以降では、主体的に研究を推進する自分なりのスタイルを模索、確立してほしい。何のための研究か、イノベーションにつながるのかなど目的を定め、研究活動に必要な情報はどのように得るのか、何を考えるのかが重要だ。生のデータを深くじっくり考えることで利用できる情報に変換できる。そうした考え方、研究の進め方も含め、自立したエンジニアであるための土台作りが大学時代であり、そのようなエンジニアを社会は望んでいる。

それができた上で就職活動をする。就活業者のあおりに流されず、焦らないこと。ネットの時代で企業情報は各社のウェブサイトやウェブ説明会で簡単に手に入る。大学の先輩がリクルーターとして大学まで来てくれたり、メールやSNSで情報をくれることも多い。コロナ禍で対面による話を聞く機会は減ってしまったが、その分気軽に聞けるオンラインセミナーの開催も多い。以前の先輩たちが大学を休んであちこちの会社説明会に行っていたことを思えば、移動時間は研究に充てることもできる。オンラインでの1 day ワークショップも増えると予想している。しかし少なくとも大手化学では、企業が開催する各種イベントに参加しないと就職できな

いなどということはない。上手に研究活動の時間と就活の時間の折り合いをつけて、研究者、エンジニアとして自分を磨く時間を確保してほしい。

就職活動を有利に進めるため就活本をしっかり読破、研究する学生もいる。採用側の目線で言わせてもらえば、就活本に頼った「どこかで聞いたようなフレーズが並ぶ文章」を読んでも感心もしなければ興味深くも思えない。想像してみしてほしい、何万人もの学生が同じ就活本を読んで「正解」と考えられる文章を書きだしたらどうなるか、ほとんど変わらない内容ではないだろうか。就活本は捨て、自分の知識、経験から自分の頭で考えた文章を記載してほしい。そこに現れる個性こそ、企業側が求めているものだ。

就職活動のために基礎固めをおろそかにして、社会人としての土台が不安定なまま就職活動の中で企業にも見抜かれて、期待する結果(内定)が得られないことも多い。化学業界では採用面接の際に研究概要について聞かれることが一般的だ。研究をしっかりやっていないとまず語れない。先輩や研究室の先行研究をさも自分がやったかのように話しても深く突っ込まれるとボロが出るものだ。こう聞くとコロナ禍で研究室に行けていないと心配になる学生もいるだろう。しかしその場合は自分が考えていることを話してほしい。研究室に行けない分、どれだけの論文を読んで自らの糧としたか、少ない研究結果でもどれだけ深く多方面から解析したか、そのような話が聞きたい。

たとえ希望の企業に入ったとしても基礎がなければ成長に支障がでるケースもあるだろうし、なにより真剣に学業に取り組んできた学生とは会社に入ってからじわじわと差がでてくる。企業に入って社会に貢献できる研究がしたい、そのように話す学生は多い。本当に社会貢献を望むのなら、真剣に学業に取り組み、自分に付加価値をつけよう。会社は勉強を教えてくれるところではない、会社で大学時代と同じように育ててくれると思うのは間違いだ。決して受け身ではなく主体的に研究に取り組める研究者、企業人としての人生を有意義なものにしたいいのではないか。

公益社団法人新化学技術推進協会 (JACI) は、化学産業・ユーザー産業・アカデミアや国の主だった研究機関を構成会員として、化学技術イノベーションに関する様々な公共性の高い事業を推進することを目的として活動している公益法人です。

イノベーション人材になるためのエッセンスを動画で紹介

予告編



本編



<http://www.jaci.or.jp/>

http://www.jaci.or.jp/about/page_10_03_01.html